

4月5日快晴、君津駅前を歩き出した2千数百名の人の群れは小糸川沿いの花見客でにぎわう「ふれあい橋」を渡って、その昔犬草平内によって拓かれた中富田園、青い風に吹かれて左折すると和蔵酒造の酒菜館で最初の一服をする。宝蔵寺を脇に見ながらほんの少し行くと、三舟山への山道がある。この坂道で一汗かきながら頂上の展望台でUターンして、郡ダムへと坂道を下って行くと、新設なった「三舟の里の案内所」へと着きました。

木の香りも新しいすばらしい案内所でした。このすばらしい施設が多くの人に活用され、喜ばれる様、ふと祈る思いでした。

ここから郡ダムまで夏は蛍が飛び交う道をいくつか曲がり、切り通しの小さな峠を越えると目の前にダムが広がって広場には、人、人で埋まっていました。

私達は早くからこのダムの景観を貴重な観光資源と提唱し、このダムを県から借りたのも会議所でありました。「保田の番屋」「金谷のザ・フィッシュ」に負けない条件を備えたすばらしい所があります。

来年は楽しみであります。

小糸川沿いの花見も相乗効果となって大混雑でした。

来年は対岸の堤防から花見が出来るようにして下さいよ！との声が多く聞かれました。

清和のみつばつつじ祭り、鹿野山の花嫁祭り、はしご獅子舞も好天に恵まれて各地からの人でいっぱいでした。

間違えなくいつもの年より、多くの人たちが集まってくれておりました。

5月3・4・5日の「久留里丸ごと美術館」には、私は最終日参加させていただきました。

実感としてこれだけ旧商店街を現代アート展に協力開放して下さいたことに感謝すると共に、久留里フィールドミュージアムの方にはよく頑張ったとの思いでありました。

3日間で千人余りの人たちが三々五々いくつもの会場を歩く姿、これが観光づくりの基本であります。

来年はこの催しに共鳴する人たちがずっと多くなると思います。

他の団体とも連携相乗効果を期待いたしております。

団塊世代の退職者は、およそ百万人と言われます。

いくつかの催し事の大多数はその層の人達が多かった様に見えました。

「ゆっくり のんびり 豊かなセカンドライフ」を郊外へと求めております。

この君津はこの人たちにとって立地条件がぴたりだと思えます。

都心から60分、豊かな緑の丘陵地帯、湧水、川、湖、田畑であります。

10年前までは、内房観光は無理だと思われていました。

今、保田の番屋は5億、金谷ザ・フィッシュは15億の売り上げと報じられております。

これからは通過型観光客ではなく、土日滞在型に変わって行くでしょうから、県外市外との交歓宿泊交流、ホームステイ等をプログラムに入れる時と思われます。

地元の人には身近な美しさに気が付かないものです。私は役目柄神社に参詣することが多くなりました。

最近気づいたことは、人見神社から見る東京湾の落日のすばらしさです。

ぜひ一度ご覧下さい。冬の落日は一番美しい…です。

